

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月3日実施)	総合評価（3月31日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①効果的な学習活動・進路活動を実践できるような教育課程を編成する。 ②生徒が主体的に学ぶ意欲を高めることをめざした授業を実践し、生涯をとおして学び続ける資質・能力の育成を行う。	①学習指導と評価の一体化を進めることで多様なニーズに応える教程の編成のための基礎を作る。 ②・基礎的・基本的な知識・技能の習得とそれらを活用する力を育てるための生徒の家庭学習の定着を図る。	①事故のない成績処理と学習指導と評価の一体化を進めるにあたり、10段階評価を廃止する。 ②授業において多様な意見を集約したり、まとめを発表したりする機会を増やす。	①10段階評価を廃止し、公平で効果的な観点別評価と5段階評定の一本化を進めることができたか。 ②・「生徒による授業評価」において、生徒が基礎的・基本的な知識・技能を習得した実感を得ることができたか。 ・家庭学習の時間を増やすことにつながったか。	①3つの観点の評価を総括し、観点評価と評定の適正化について教ごとに再検討したり、それに対応できる成績処理シートを作成したりするなど5段階評定の一本化を進めることができた。 ②・「生徒による授業評価」において、「得た知識を活用できた」「新たな学びを既習のものと結び付けた」と感じている生徒が約9割であった。 ・家庭学習の時間についてアンケートを実施した。定期試験前には試験勉強を行う生徒が過半数いるのに対し、日常的に家庭学習をしている生徒は半数程度であった。また、家庭学習の内容については、約7割の生徒が学校からの課題に取り組んでいることが分かった。	①来年度から使用する新たな成績処理シートの活用について具体的なルールを確認し、成績処理の共有・一本化を進める。 ②・ICTを活用したり、ペアワークやグループワークの活動を多く取り入れたり、活発に授業研究、改善が行われており、その成果が授業評価にも表れている。成績処理シートが変わるので、学習の評価の仕方について研修を進める。 ・学校からの課題を増やすことや定期試験ごとに家庭学習の時間・状況について把握・分析することで、家庭学習の習慣化を目指す。	①公平で適正な評価の体系化が進んだ。 ②・「生徒による授業評価」の状況では、「目標を確認したり、学習内容を理解したかを振り返ったりする時間があつたか」などの2項目で7月より12月の方が若干低下している。学習内容の定着と指導スキルの向上の両観点から授業改善に取り組むことが重要だ。 ・授業の在り方、学習状況とともに90%以上の生徒が「当てはまる」と回答しているが、家庭学習アンケートの学年別回答率が2,3年生の回答率が低いことが気になる。今後は学年ごとの取組の特徴がわかるとよい。また、電子黒板の有効活用やロイロノート等の活用を進めていることは評価できる。	①観点別評価とそれを総括した評価である評定に関し、成績処理シートを通して評価の仕方を改めて考えることができた。授業改善プロジェクトチームと連携して、授業評価について校内講話の機会をつくり、他校の研修内容を共有することで授業評価の理解を深めた。 ②基礎的、基本的な知識・技能の習得やそれらを活用する力を育てるための家庭学習の定着について、日常的に学習を行う生徒より、課題や定期試験など必要に駆られて学習を行う生徒が多いことが分かった。課題やテストの機会を増やすことで、家庭での学習機会を増やし定着につなげたい。	①令和7年度は全科目において適正な成績処理シートに統一する。 ②・「生徒による授業評価」では、2回目の評価が1回目より低下している項目に関しては、各教科および授業研究部会と連携し、授業力向上のポイントを整理して研究テーマを定めた授業改善を図り、0.3ポイント以上の評価の向上をめざす。 ②日常的に家庭学習に取り組む生徒を60%に増やす策を講じるとともに、来年度以降も計画的な学習調査を実施し、データを蓄積することで学習状況の把握や分析に活用する。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	①生徒の基本的な生活習慣の確立と集団生活の基本的なルール・マナーを守る意識を育む。 ②生徒同士が主体的にかかわり合い相互理解を深めるインクルーシブな学校づくりに取り組む。	①学校生活の基本的なルール・マナーを指導・支援する。 ②相互理解に係る学習会や面談の機会を設定し、多様な考え方を認め合う居心地のよい学習環境をつくる。	①月ごとに遅刻者数の推移を把握し、対象者への継続的・計画的な指導を行う。 ②・人権にかかわる学習会や相互理解を深める年度当初や長期休業中に生徒との面談の機会を設定する。	①・交通マナーに係る苦情や事故を減らすことができたか。 ・遅刻指導対象者を減らすことができたか。 ②・全校生徒を対象に人権にかかわる学習会と相互理解を深める学習会を3回以上実施することができたか。 ・生徒との複数回の面談の機会を活用し、専門家による教育相談につなげたり、進路支援に生かしたりすることができたか。	①・自転車による苦情件数は11件で昨年度の8件より増えている。 ・月に遅刻5回以上の生徒を対象に継続的な指導を実施しているが、対象者数が118人増え、昨年度を大幅に上回ってしまった。 ②・人権研修会1回と相互理解教育学習会を2回開催した。 ・年度はじめの面談やかながわサポートドックによる面談を実施し、SCやSSWや外部機関につなげることができた。 ・1学期・2学期とも、学期半ばで全生徒との面談を実施し、問題の早期把握・早期解決につなげた。	①・警察などと協力し、全学年対象とした交通ルールの講習会を行う。 ・3学年は進路決定後に遅刻者が増える傾向があるが保護者への協力要請を含め効果的な遅刻指導を模索する。 ②・講師や内容を決める時のリソースが少ない中、生徒の気づきを促し、意識や行動の変容を促す効果的な研修会を企画する。 ・サポートドックの分析から漏れた生徒の相談体制を含め体制の見直しを図る。	①・苦情内容に応じた対応策を検討するべきだ。道路交通法の改正が厳しくなる現状の中で、交通ルールやマナーを守る話をしてほしい。また、地区の交通安全大会の動画などを生徒に配信し視聴してもらうなどの工夫もよいと思う。 ・遅刻者数（特に3年生）については、昨年の3年生の倍、2年次から3年次の倍増には驚きを隠せない。家庭への協力も必要だ。 ②人権教育や相互理解を深める活動はとても大切で、効果的な取組を実施した。今後も継続して実施してほしい。	①・登校時に職員が巡回指導を行っている時は通学マナーが守れている。また、ルールやマナー違反にはその都度注意指導はできている。注意の目がない場所や時間帯で苦情をいただくことが多い。 ②・生徒の実態に合った研修内容を企画し、どのような結果（成果）がでたのかをまとめる必要がある。 ・サポートドックの実施時期を面談週間に合わせて実施すると効果的だと思われるが、システム等の理由で難しい。	①・関係機関と協力し、交通マナー講座等を全学年で実施する。 ・遅刻指導の際に家庭への協力をお願いする。 ②あらかじめ研修内容等に関するアンケートを取り、生徒の実態に合った研修を行う。また、継続的なテーマで研修を行い、生徒の考え方や行動の変容を促す。 ・サポートドックの分析から漏れた生徒を教育相談コーディネーターで面談を行うなどの対応を行う。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月3日実施)	総合評価（3月31日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①生徒一人ひとりの個の力を生かした進路実現・自己実現の支援に取り組む。 ②体験的な学習やキャリア教育・シチズンシップ教育等の機会を充実させ、組織的な進路指導・支援を行う。	①・総合的な探究の時間での進路学習や業者テスト等を計画し、計画的・効果的なキャリア教育に取り組む。 ②・消費者教育・政治参加教育・防災教育の充実を図る。	①スタディーサポートや外部試験を活用・分析を行い、生徒の主体的な学習活動・進路支援につなげる。 ②夏季休業中の体験学習や防災教育の充実を図る。	①総合的な探究の時間や個別面談の機会を通じて、外部試験等のデータを活用しながら学習支援や進路支援を行うことができたか。 ②・夏季休業中の体験学習等への参加者を増やすことができたか。 ・時勢の問題に照らして防災意識を高める活動を計画することができたか。	①総合的な探究の時間においては、上級学校の実施し、体験の機会を設定した。また、1,2年生で校外模擬試験の受験者数が増えた。 ②・オープンキャンパス等への参加を促す説明会を行ったが、体験学習等への参加者は半減した。 ・2回の防災学習を通じて、地震だけでなく風水害や土砂災害等についても理解を深め、日ごろの備えの重要性を確認した。	①試験の業者をある程度統一させることにより、生徒個人の学力の推移を進路指導へつなげる。 ②・長期休業を稼業期間とは異なる学びの期間と捉え、意義ある教育活動・進路活動を模索する。 ・その場限りの理解ではなく、災害発生時に自分の身を守る行動を適切に取れるよう、知識・技術の定着を図る。	①1年生の段階で上級学校訪問を実施したことはよかった。希望の進路が確定する前に仕事や学びの分野を幅広く学習してほしい。 ②今年度は体験先が3社減っている。参加希望が少なかったのか選択する企業数が少なくなってしまったのかが気になった。多くの生徒が卒業後に上級学校に進学するとしても、就業体験は貴重な学びの場であるので、より多くの生徒に体験できる場を設定する必要がある。	①上級学校訪問ができるようになり、職業ガイダンスからの進路選択の流れができつつある。多様な進路から具体的な進路学習へとすすめていく道筋をつくった。 ②・長期休業を有効活用できるよう、早めに参加を促したい。体験先の開拓も早めに行いたい。 ・自らの生活に即した形で、防災・減災に関する知識及び心構えを身につけた。いざという時の行動実践に向け、さらに防災・減災に係る理解を定着させたい。	①実力試験のデータ分析や職業ガイダンス、上級学校訪問でも学びや体験を具体的な進路選択に活用する。 ②・インターシップの参加者等を増やせるよう、アナウンスの方法に工夫を凝らす。 ・常に大地震や大規模な風水害が発生するおそれがあるという認識を深めさせ、家庭や友人間でも、平時から情報共有や災害時の行動シミュレーションを行うよう促す。
4	地域等との協働	①インクルーシブな学校づくりのために、支援学校や地域の施設や企業と連携する。 ②地域との様々な協働を模索し、生徒組織による活動発信や広報活動の充実を図る。	①地域との合同による防災訓練や衛生活動等を実施し、連携を深める。 ②地域の教育資源を活用したり、諸機関との連携を図ったり、学校行事を公開したりすることで連携事業を模索する。	①・消防署と連携し、防災訓練・講話を実施する。 ・自治会と連携し、通学路や地域の公園等を清掃する。 ②特別支援学校と連携し、インクルーシブな学校づくりについて交流を図る。	①・地域の防災に係る理解を深め、避難経路・避難方法の確認や災害時帰宅訓練を行うことができたか。 ・生徒組織を活用し、定期的な地域清掃を実施することができたか。 ②特別支援学校と連携し、学校行事における協働作業や交流を図るイベントを実施できたか。	①・消防署の指導の下で防災訓練を実施し、災害発生時の注意事項や消火器の使い方等について理解を深めた。 ・全学年で地域貢献活動を実施し、地域の美化に取り組んだ。 ②両校の共催である体交流パフォーマンスで盛り上がり、クラス対抗大縄跳びでは特別支援学校の3年生が優勝し大きな拍手がおこった。同じく両校の共催である文化祭は保護者や地域に公開する形で交流した。	①・高校生として、地域の防災・減災に貢献できるような知識・技術・心構えを身につける機会を設けたい。 ・生徒各自が日常生活や居住地域でも生かせるよう、活動を契機に公共空間の美化意識を高める。 ②相互理解学習会や清掃活動、校内環境整備などの活動においても、地域等と交流できる機会を模索する。	①地域への貢献は大変よいと思う。また、防災への知識を高める取組も進んでいる。 ②文化祭では、地域との交流を図る企画がもう少しあってもよい。例えば、部活動等を活用し、地域の小学校や中学校との連携発表などもよいと思う。	①・学校で地震に遭遇した際の対応は一通りイメージできるようになった。 ・地域の美化に取り組むと共に、たばこのポイ捨てやさまざまなゴミが不法に投棄されている現状を認識した。 ②生徒の主体的な活動を促すことができた。アンケートからも充実して盛り上がったとの回答が多かった。また、高津支援学校の分教室との交流も生徒の大きなプラスになっている。	①・学校以外の場所で災害が発生した際の行動についても学ぶ機会を設けたい。 ・周囲と協働して地域の美化を進めていく。 ②部活動では中学校との合同練習の機会を増すことや、小学校の体育祭や陸上競技大会などで本校生徒が指導・支援にかかわることなどの取組を復活させる。
5	学校管理 学校運営	①インクルーシブ教育の視点から安心・安全な教育環境の整備をすすめる。 ②働き方改革を推進し、教職員が生徒と向き合う時間を確保することで信頼される学校づくりをめざす。	①清掃活動・ごみの減量及び分別を徹底するとともに施設・備品等の修繕をすすめる。 ②業務の精選を行うとともに、効率のよい会議運営を行う。	①・ごみの分別指導を徹底する。 ・50周年事業の予算等を活用して施設・設備の状況に応じた修繕を行う。 ②恒例的で簡易的な業務案件について、会議の設定の仕方や協議方法を見直す。	①・ペットボトルのキャップを分別し、SDG s 事業に貢献できたか。 ・施設・設備の状況が改善され、安心・安全な教育環境を整備できたか。 ②書面開催や稟議対応等により、通常の会議時間を短縮したり、回数を減らしたりすることができたか。	①・ペットボトルキャップの回収が進み、38kg まで到達した。 ・ゴミの分別の徹底について、折々に注意喚起をおこなった。 ・50周年記念事業の予算の活用と同窓会からの寄付により、古くなった生徒用ロッカーや下駄箱を廃棄し、新たな備品を設置する計画が進んだ。 ②会議資料をデータ化しペーパーレスを進めたり、会議時間の短縮を図ったりすることができた。	①・50kg の回収でワクチンをつくることにつながる取組だということを生徒たちに周知し取組をより活発化する。 ・ゴミの分別の必要性についての知識を深め、美化活動の基本的な事柄から指導の徹底を図る。 ②会議時間の短縮化を図ることはできたが、会議内容の共有しや実働の効果については行き届かない実態があることは今後の課題である。	①・38kg ものペットボトルキャップの回収ができたことはよいことだ。よい取組なので、体育祭や文化祭などの大きな行事でも呼びかけを行ってみてはどうか。こうした活動を継続していけるとよい。 ・ゴミの分別については、文化祭の時、校内のゴミ箱に分別せずに捨ててしまう生徒を見て残念に思った。公共の場やみんなの生活の場を清潔に保つ日常的な取組であってほしい。	①・ペットボトルキャップの回収をとおして環境やSDG s への意識を高めることにつながった。 ・文化祭での大量消費・大量廃棄の状況を改善したい。 ②会議時間の縮小化は進んだものの、インクルーシブ教育推進などの取組については、業務を各グループや各学年に移管したことによって、情報共有と進捗が停滞しないよう管理することが課題である。	①・ペットボトルキャップの回収の成果を全校集会などの機会に周知する。 ・廃棄物量を抑制し、3 R の徹底に向けて意識改革を促す。 ②働き方改革の推進に係る視点と生徒に対する取組の教育効果の観点で議論が二分することについて整理し、学校教育計画・学校目標の実現に係る取組の進行管理を行う。